

北海道駒ヶ岳

○地磁気全磁力

北海道大学では、プロトン磁力計により山頂火口原を含む 5 カ所で全磁力観測を行っている (図 1)。2006 年以降の変化 (K04 を参照点とした単純差) を図 2 に示す。火山性と明瞭に認識できる変化は検知されておらず、地下浅部に顕著な温度変化は起こっていないと推測される。2014 年 5 月 14 日に行った現地観察でも、山頂火口原の地熱異常に変化は見られず、昭和 4 年火口の噴気量も極めて少量であった。これらのことから、最近の数年間は火口への熱供給そのものが少ない状態が継続していると考えられる。

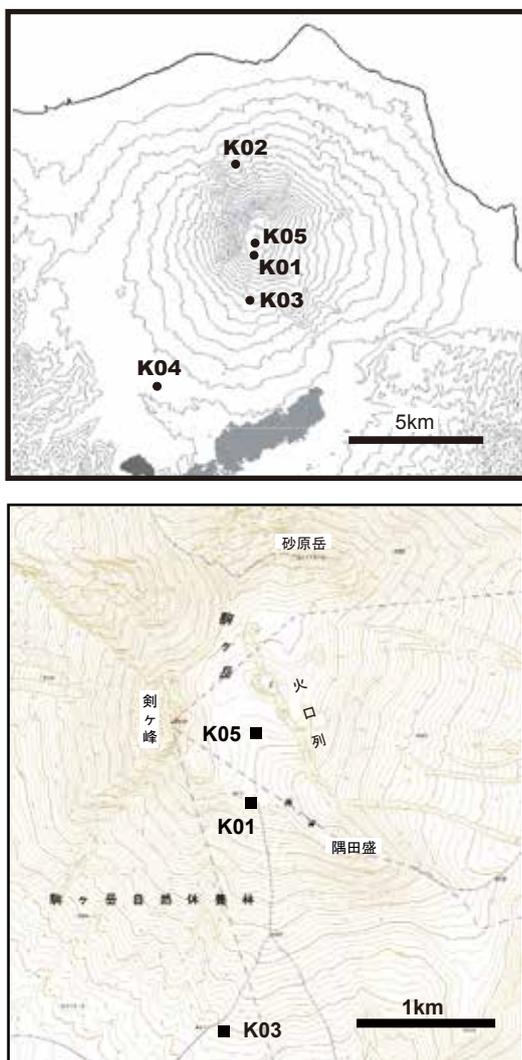


図 1 全磁力連続観測点の配置。下図は山頂域の拡大図。本図の作成には国土地理院発行の 50m メッシュ地図標高およびオンライン地図画像を使用した。

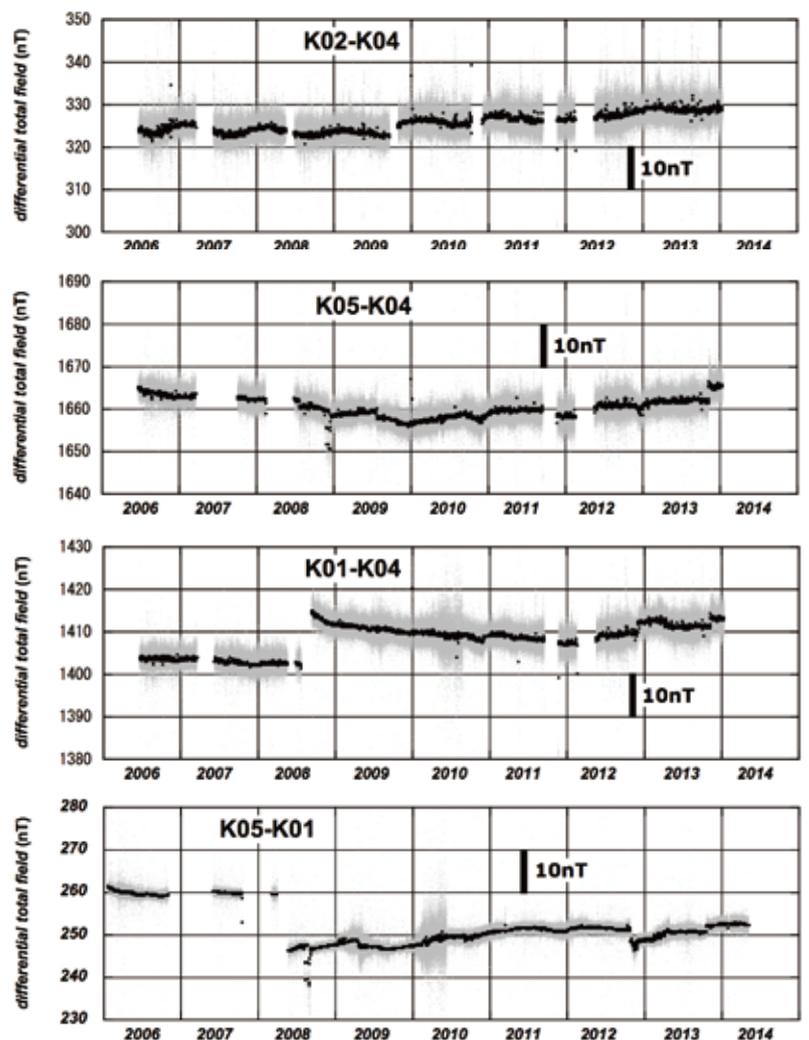


図 2 2006 年から 2014 年の全磁力変化。毎 5 分値単純差 (灰色) およびその日平均値 (黒) でプロット。上の 3 つのグラフは K04 を参照点とした各地点の変化。最下図は山頂火口原内の K05 と K01 の単純差。K03 は観測施設工事のため休止中。